コシヒカリ栽培 こよみ〈JA米の生産基準〉

坪当たり70株植え、田植え後25日から中干し開始、出穂期　から20日間の湛水管理で品質の高い氷見米に仕上げよう!!

コシヒカリ 9俵どりの目安

栽植密度	70株／坪
1株当り穂数	19本
㎡当り穂数	400本
1穂着粒数	70粒
㎡当り籾数	28,000粒
千粒重	22.5ｇ
登熟歩合	87%

※　穂数不足により収量及び品質の低下が目立っています。面積当りの穂数を確保するために、70株、浅植えを行ってください。

生育診断

◆分施施用の場合

【1回目】幼穂形成期から8日後（幼穂長15㎜の時期）に生育状況を確認し、以下の表を参考に穂肥を施用し、　穂揃期の葉色を4.2～4.5に誘導。

10a当たりの施肥量

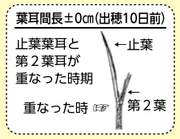
【幼形期8日後生育】
葉色 3.4～3.7
草丈 80～84 ㎝
程度であれば追肥3号10kg

葉色が淡い　3.4未満	草丈 80㎝未満　幼形期 8 日後に追肥3号	10kg
	草丈 85㎝以上　幼形期10日後に追肥3号	10kg
葉色が濃い　3.8～4.0	草丈 80㎝未満　幼形期10日後に追肥3号	7kg
	草丈 85㎝以上　幼形期10日後に追肥3号	5～7kg
葉色が濃すぎる　4.0以上	施肥しない	

【2回目】
1回目から1週間後に追肥3号10～13kg／10aを確実に施用。
※1回目を施用していない場合は、葉耳間長±0㎝の時期（出穂の10日前）に追肥3号10～13kg／10a施用。

◆肥効調節型基肥（Jコートコシヒカリ）を施用した場合

・葉耳間長 ±0㎝の時（出穂の10日前）に葉色が4.0（砂壌土4.2）以下の場合、穂がちらほら見られる時（出穂期3日前）までに追肥3号を7kg／10a施用し、穂揃期の葉色を4.2～4.5（砂壌土では 4.5）に誘導。



重点ポイント

ポイント1　元気な若い苗づくり
・田植え日に合った播種をし、育苗中の換気を十分行いましょう。

ポイント2　田植え作業の改善
・5月15日を中心に、坪当たり70株、1株当り3～4本植え、3cm程度の浅植えを確実に行いましょう。

ポイント3　適正な水管理
・活着後は浅水管理、田植え後25日から中干し開始。田植え後1ヶ月頃溝掘り
・穂が出たら20日間は水を3cm以上ためて、収穫7日前までは必要な水分を供給

25本／株　無効分げつ　最高分げつ期
15本／株　溝掘り
10本／株　中干し開始
3～4本／株　70株植
幼穂形成期 22本／株
葉色4.3
穂数 19本／株

肥効調節型肥料（Jコートコシヒカリ）
葉耳間長0㎝時（幼穂形成期後10日頃）に葉色が4.0以下の場合「追肥3号」を7～10kg／10a施用

【中干し時期】
・田植え後25日から落水し、中　干しに入る。
・溝の手直しをする。

【1回目の穂肥】
生育に応じて慎重にかつ的確に施用
幼穂長が15～20mmの時期に施用(葉色3.6)
平年 7/20頃

【2回目の穂肥】
土質に応じて確実に！！
1回目施用から1週間後に施用
平年 7/27頃

は種4/26　田植5/15　幼穂形成期7/12頃　出穂8/2頃　成熟9/11頃

生育区分	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	登熟期	収穫
水管理 目的	健苗育成	活着と分げつの促進		根をより深く張らせる	稲体の健全化	稲体の活力向上	根の活力維持	適期刈取

水管理 方法：深水　田水温を高め　浅水　分げつ促進　溝掘り　中干し（溝の手直し）（田植25日後）　間断かん水　飽水管理　出穂期から20日間湛水する　間断かん水　落水

月：4月　5月　6月　7月　8月　9月

コシヒカリ 施肥設計基準

※適正基肥量は土壌によって大きく変わります。
基準を参考にして地域により加減して下さい。

全層施肥

(kg／10a)

土壌	基肥	早期追肥（田植後7日頃）	穂肥 幼穂長15～20mm	穂肥 1回目の1週間後
	基肥555	基肥555	追肥3号	追肥3号
粘質土	14	7	10	10
壌質土	17	7	10	12
砂壌土	20	7	10	13

側条施肥

「ＬＰ555－1号」　(kg／10a)

土壌	基肥	穂肥 幼穂長10㎜
	LP555－1号	LP追肥38号
粘質土	14	15
壌質土	17	15
砂壌土	20	17

「肥効調節型肥　料」(基肥一発肥料)を使用する場合　(kg／10a)

土壌	側条施肥 Jコートコシヒカリ2号	側条施肥 Jコートコシヒカリ1号
粘質土	25～30	
壌質土	30～35	
砂壌土		35～40

○高温年は出　穂3日前迄の追加穂肥を施用しましょう。(追肥3号 7kg／10a)

肥効調節型肥料 使用上の注意点

○ 側条施肥田植機での使用に限定する。

○ 肥効調節型肥料の施用は5月25日頃までとする。
（それ以降の施用は倒伏しやすくなります）

○ 仮比重が一般の肥料より軽いため、田植機施肥部の開度の調節を必ず行う。

○ 分施に比べてリン酸、加里の比率が低く不足しやすいので、春に新スーパーエスアイ加里を施用する。